

1 全体（基本理念等）について

項目	第2回総合教育会議における委員・市長の意見、コメント	意見への対応
基本理念 （コンセプト）	・基本理念は「新しい時代を担う人づくりのまち 東広島」とする。	決定。
	・コンセプトに積極性があつた方がよい。（坂越委員）	コンセプトを修正。
基本方針及び施策の方向性	・全体を通貫した整理が必要であり、具体的な取組を整理する際は、外部、内部の取組の整理が必要。（坂越委員、京極委員）	教育振興基本計画等、具体的施策への落とし込みの際に整理していく必要がある。
	・「施策の方向性」は文言として固い（長嶋委員）	文言を修正。

2 基本方針等について

基本方針（案）	目指す施策の方向（案）	第2回総合教育会議における委員・市長の意見、コメント	意見への対応
1 <u>0歳からの学びのスタート（乳幼児期における教育・保育の充実）</u>	0歳から就学までの子育て、家庭教育の支援 ・子育てにおける世代間ギャップの解消 ・ネウボラをキーステーションとした家庭教育・子育ての支援	・基本方針の表題「学びのスタートライン」は小学校就学をイメージしていると考えるが、小学校就学までにも「学び」はある。誤解のない表現とすべき。（教育長） ・「スタートライン」というと問題があるように感じられるが、主な施策と併せてみれば、表現しきれているように思われる。（渡部委員）	・基本方針の表題は、学びは生まれたときにはじまることから、「0歳からの学びのスタート（乳幼児期における教育・保育の充実）」とし、基本方針1では、小学校就学までの様々な取組を包含する表現とした。 ・重要な取組みとして大綱に位置づけるべきものである。 教育振興基本計画等の策定、事業の検討の中で具体的な取組、連携体制を構築する上での課題を整理していく。
	市長部局と教育委員会が一体となった乳幼児期の教育・保育の質の向上 ・大学や関係機関（広島県乳幼児教育支援センター）との連携、研修等	・重要な取組であるが、実際に進めるには、相当な労力が必要となる。教育委員会と市長部局（健康福祉部、こども未来部）との連携が重要になってくる。（教育長） ○今後、教育振興基本計画を策定していく中で、施策・事業が全体が通貫した整理が必要である。関係部局も入れてうまく連携するような取組を考えたい。（市長） ○県や本市では、ネウボラを推進している。こうした中で、保育や幼児教育をどう家庭にも展開するか、県教育委員会で取り組んでいるプログラム等も視野に入れてうまく活用していく必要がある。（市長） ・いわゆる産学連携とは異なる部分である。連携に向けては、施策に応じて大学との調整が必要である。（坂越委員） ○様々な機会を通じ、具体的な取組に応じて連携に向けての調整を進めてまいりたい。（市長）	
	小学校への円滑な接続のための保幼小連携の推進	○教育委員会の中に保育あるいは健康福祉部門が入り、施策を推進する事例もある。（市長） ・体制を教育委員会の中に作る方法もあり、当面連携しながらという方法もある。ただし、いずれにしても、これまで取組を進めていない部分である。課題は大きく、教育委員会と市長部局（健康福祉部、こども未来部）との連携が重要になってくる。（教育長）	
2 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成	・「健やかな体」の説明部分に、「意欲と実践力」とあるが、「体力」という言葉が入るのでは。「意欲、実践力」は「確かな学力」に含まれると思う。（教育長）	「健やかな体」及び「確かな学力」の説明を修正。
	<u>当り前のことが当り前にできる子どもの育成</u> <u>・家庭や学校における「東広島スタンダード」の定着）</u>	・大綱に明確に記載されていないが、位置づけはどうか。（織田委員）	主な施策に明記し、追加する。

2 基本方針等について

基本方針（案）	目指す施策の方向（案）	第2回総合教育会議における委員・市長の意見、コメント	意見への対応
2 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	福祉・教育双方の視点による学びのセーフティネットの構築 ・多様なニーズに応じた教育の実施、相談・支援体制の充実、 ネウボラの活用、食育の推進等による貧困へのマイナスの連関の抑止	・乳幼児期の教育・保育と同様、教育委員会と市長部局（健康福祉部、こども未来部）との連携が重要になってくる（教育長） ・本市としても丁寧な対応を期待する。（渡部委員） ・学びのセーフティネットの考え方について、「学力に課題」とはどういうことなのか、また、「障害のある児童生徒への取組」とはどうか。一面的な見方となっていないか。（織田委員） ○学びのセーフティネットについては、学校のみ取組ではない。市としても一体的な取組が必要である。慎重な位置づけの検討が必要。（市長） ・「学びのセーフティネット」については、領域をまたがる難しさがあるが、学校教育を中心とした方針の中に位置付いていても、市として一体的な取り組むのであれば、子ども達の学び全体を支えていくという意味で、位置付けは可能であると思う。（坂越委員）	・「福祉、教育双方の視点」の記述を追加 ・一面的な課題への対応ではなく、様々な取組によって貧困への連関を抑止する記載とした。
	大学、研究機関との人的・物的連携の推進による理数教育分野における興味・関心の喚起 ・近畿大学工学部や広島大学情報科学部との連携等	・（基本方針3全般）今後の新しい教育については、学校現場の状況等は厳しいが、指導要領にも基づき実践していく必要がある。（教育長） ○広島大学産学地域連携、近畿大学工学部産学連携センター等を核にして、うまく連携を取りながら進めていく必要がある。（市長）	・教育振興基本計画等の策定、事業の検討の中で具体的な取組、連携体制を構築する上での課題を整理していく。
3 新たな価値を創造する人材の育成を目指した教育の展開	大学・企業と連携した最先端の研究体験など、子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実 ・大学や企業と連携した最先端の研究体験、モデル校指定による特化プログラムの実施及び既存の取組の見える化	○新たな価値創造という点では、「STEM教育」に加え「A r t」も関わってくる。（市長） ・3Dプリンタなどのツールを使って、創造性豊かな子どもたちを教育していくという中身が必要（京極委員） ・市も大学も既に様々な取組を行っている。理数系の興味の喚起など既存の取組も含め、一度整理し、市の方針を「見える化」する必要がある。（京極委員）	・創造性を伸ばす視点を追加 ・既存の取組の見える化を具体的な取組に追加
	生涯にわたる能力開発と学びによる豊かなまちづくりの実現 （市民が主体的に「生きがい」づくりやライフステージに応じた「学び直し」ができる地域社会の実現）	・スポーツ振興課を窓口として、教育文化振興事業団が「生きがい健康体育大学」事業を展開している。地域での生きがい創出、健康寿命の延伸等とともに、健康福祉部との連携も生まれている。こうした取組も評価すべき。（渡部委員） ○健康寿命の延伸も含め、重要な視点。（市長） ・「学び直し」について、大学には、社会人入学（ドクター、修士コース）や高度な資格を取得できる受入れ体制がある。更に市民の方にもお知らせし、意欲を出してもらいことも大切である。（渡部委員） ・市の特徴を活かし、大学連携の中で「学び直し」の推進を。（京極委員）	・文言等の修正は行わないが、生涯にわたる能力開発と学びによる豊かなまちづくりの実現の中で取り組む。 ・具体的な事業等の位置づけは「生涯学習推進計画の中でも行っていく。
5 市全体が生涯の「学びのキャンパス」となるための環境づくり	学びから生まれる交流やつながりを通じた社会・地域における人々の信頼関係や結び付きの醸成、まちの活性化		